

《保利建設社から大切なお客様と、未来のお客様へお届けする情報誌》

ほりけん通信

2020

Vol. 60

発行人：㈱保利建設社
糸島市東1437-2
TEL：092-322-4779
FAX：092-322-4799
編集長：保利千晴

社長コラム ～日頃から準備を～

台風シーズンの9月に入った途端に台風9号と10号が立て続けに発生して強い勢力で九州本土をかすめて行きました。各地で災害が起き、糸島でも鳥居が壊れたり、倒れた大木で神社が倒壊したり、またお客様からも被害のご連絡を多くいただきました。

台風10号は発生したときから、「猛烈な台風で甚大な被害が予想される」などと気象庁の発表などがあつたため避難の為に宿泊する人でホテルは満室になったり、どの家の窓ガラスも縦横斜めにテープが貼られ、ガソリンスタンドは満タンにしておこうとする人達で行列。スーパーやコンビニはほとんどが計画休業をしました。

我が家も停電に備え、カセットコンロを用意し、窓ガラスにはテープを貼り、ガソリン満タンで台風にも備えましたがもしも停電したら…と思った私たちは、溶ける前に食べておこうと冷凍庫の食材をほぼほぼ使いはたしてしまい一日だけですが食糧不足に陥ってしまいました。

台風被害が思ったより少なかったから良かったものの、非常食の備蓄も含めてもっと災害に備えておかないといけなと改めて感じました。

非常食というわけではありませんが、最近の私のマイブームは「干物づくり」です。いままでに作ったことはなく、最近初めてやってみたんですが意外に簡単です。この時期美味しいカマスやアジを背開きにし塩水につけて乾燥をさせるだけです。暑い夏は干している間に腐るんじゃないかと心配ですよね。そこで便利なのが浸透圧脱水シート「ピチット」。塩水からあげた魚の水分を拭き取り、このシートに挟み冷蔵庫で約半日寝かせるだけでおかずにも酒の肴にもぴったりのアジやカマスの開きができるんです。食べた子供たちからも美味しいと好評でした。



代表取締役 保利重勝

ほりけんの 家づくり

～納屋屋根葺き替え工事～

糸島市H様邸

今回の工事は、H様邸ご自宅の横に建つ築60年の二階建ての納屋の屋根工事です。

Before



昔はここで牛を飼って
田んぼや畑を耕したり
牛のふんを堆肥にして
畑に撒いたりしていた
そうです。

近年は軒下でみんなで
焼肉をしたりと、憩いの場
にもなっていたそうです。

左側に見えるのが40年前の納屋です。



この頃の屋根は竹と杉の皮の下地の上に大量の粘土を置き、その上から瓦を並べる「土葺き工法」でした。昔の瓦は捻じれたりしているものがほとんどで、瓦と瓦を合わせるのにガタつきが生じます。そのため、土を瓦の下に敷くことで瓦同士のガタつきを防いでいました。屋根の上に粘土と瓦が乗るので重量はかなりのものです。



15年前の福岡県西方沖地震の時に瓦同士をシーリングで固定する「瓦止め」をしていましたが、その後少しずつ瓦がズレていってしまっていました。今では普段あまり使わない納屋ということもあって雨漏りに気づいていらっしゃいませんでした。今回の屋根の無料点検で屋根に上がり点検をしたところこの瓦のズレを発見しました。



After



まずは瓦と土を下すことから始めます。
土まで取り除くと下地の杉皮と竹が見えてきました。
この下地まで取り除きます。
屋根の撤去が終わると、屋根葺き工事に入ります。

今回は軽量で低コストのうえに耐久性も兼ね備えたガルバニウム鋼板の波板を葺きました。傷みかけていた壁もガルバニウム鋼板に張り替えています。陶器瓦の重厚感はないもののすっきりとシャープな感じの納屋に仕上がりました。

屋根の豆知識

「新築時」や屋根の葺き替えの時…「屋根材はどれが一番いいのだろう？」と悩むところですね。外壁や窓、外構など他の所はこだわりがあっても、見えにくい屋根にこだわりを持っている方は少ないのではないのでしょうか。

しかも一番厳しい気性環境にさらされるのが屋根なのです。どんなものがあるのか基本知識を知っておくと今後の屋根選びがしやすくなります。



陶器瓦

近年の陶器瓦は品質も良くほとんどメンテナンスは要らないと思いますが、昔の瓦は今回の工事のような「土葺き」の屋根が多く、一度ズレ出すとなかなか止めることが出来ないで、症状が悪化してくると葺き替えになります。

また以前の瓦の中には材料の粘土の品質や焼きの温度などの問題で特に塩害を受ける場所では瓦が溶け出して粉状になる現象が見られます。この場合も葺き替えが必要となるでしょう。



瓦の精度が良くない時期の瓦は瓦同士のスき間やガタつきがあり、その隙間から雨が侵入することもあります。先日このような屋根瓦のお宅がありましたので葺き替えをお勧めし工事をさせていただきました。

また瓦には釘穴がありますが、その釘穴がきれいにあいてない時期の瓦には釘がほとんど打ってないこともあるようです。また数枚おきにしか釘が打っていない瓦もあります。そのようなときは瓦同士をシーリングで留める「瓦止め」が有効です。

また使っている釘によっては瓦が割れることもあります。以前は銅釘、今ではステンレス釘を使うことが多いですがなかには亜鉛釘を使って瓦を葺いている瓦もあります。亜鉛釘は長年の間に錆びていき、膨張した釘が瓦の穴を押し割ることがあります。

他に屋根には「谷」と呼ぶ板金が入ったところがありますが、そこの点検も必要です。

化粧スレート (コロニアル・カラーベストなど)

化粧スレートは定期的な塗装が必要です。また古くなってくると割れやすくなりますのでアンテナの設置などで屋根に上がるときは注意が必要です。



傷みがひどい化粧スレートには、その上からさらに化粧スレートやガルバニウム鋼板を葺くカバー工法やシングル屋根材「リッジウェイ」のカバー工法がおすすです。化粧スレートのカバー工法の第一のメリットは「古い化粧スレートを剥がさず工事ができること」です。以前の化粧スレートにはアスベストが含まれていることが多いのです。アスベストが含まれた屋根の撤去や廃材の処分には費用が多くかかりますので、それをほがさないカバー工法は人体や環境、お財布にも優しいということになります。

金属屋根

古い金属屋根には銅板やタン（亜鉛メッキした薄い鋼板）などがあります。銅板は高価なものですが瓦の釉薬や酸性雨の影響を受けて穴があくのは今では常識と言って良いほどになりました。

タン屋根も定期的な塗装をすれば長持ちするのかもしれませんが、なかなかそのような屋根を見かけることは少なく、かなり傷んだものを見る人が多いように思います。傷みがひどい金属屋根は耐久性に優れたガルバニウム鋼板での葺き替えが良いでしょう。

いかがでしょうか。屋根一つとってもいろいろな工法やメンテナンス方法がありますよね。これを機にご自宅や会社の屋根の様子を見てみてはいかがでしょうか。



お米実らせ体験 2020

～「稲刈り」中止のお知らせ～

毎年開催しております「お米実らせ体験」ですが、コロナウイルス感染拡大防止の為6月の「田植え」に続き、例年10月に開催しております「稲刈り」も中止とさせていただきます事となりました。

毎回楽しみにして下さるお客様には、として心苦しいお知らせとなりましたがご参加頂く皆さまが心から安心して楽しめる様な楽しいイベントを企画してお知らせしたいと思っております。

またこんなイベントをしてみたいなど、ご意見などございましたらぜひお聞かせ下さい！

編集後記

編集長：保利千晴

皆さま、こんにちは。

先日久しぶりに友人とランチへ行ってきました。

自粛自粛が続き「そう言えばしばらく行ってないね。」という話になり、糸島市岐志にあるイタリアン食堂「トラットリア ジロ」という所に行ってきました。

少し前まではしなかった事ですが、お店に入る前に手をアルコール消毒し、食べる直前までマスクをして…と、今は誰もが当たり前のように感染予防をしています。

自粛ばかりでは飲食業界も立ち行かなくなってしまう。「不要不急の外出は控える自粛生活」から「この生活とどう向き合って過ごしていくか」を考えながら過ごしていくのも大切だなと思いました。

友人との久しぶりの食事は本当に楽しい時間でした！



漫画 ほっとひと息

「念には念を。。」

絵：編集長

実はわたくし、副業でハンドメイド商品の販売をしております。年に数回イベント会場に行って販売していますが…今年は例年とは違いガラッと変化がありました。

この「コロナ禍」の中、イベント開催にあたっては保健所の指導の下、色々な厳しいチェックがあるそうで…イベント出店者には、この完全な感染防止スタイルで臨むことが義務づけられています。

入店時の検温
+
フェイスシールド
+
マスク



そして「顔面温度」が高くなるので首から下げる扇風機は欠かせません！少し慣れてはきましたが、なかなかの暑さになるので本当に体力を消耗します。

早く、普通に顔を出して販売できる日が来て欲しいと願うばかりです！

株式会社 保利建設社

〒819-1122

福岡県糸島市東1437-2

TEL (092) 322-4779

FAX (092) 322-4799

糸島の空気がうまい家

検索



Email: info@horikenhomes.jp

LINE
公式アカウント



こちらをInstagramの「設定」からスキャンするとフォローできます。

